

築理会報 99 春号

1999年2月発行 Vol.24

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3

東京理科大学工学部 ・ 部建築学科

築理会事務局 03-3260-4271(内3293)

03-3235-6897(FAX)

NEWS

築理会会費 3,500 円に改訂 終身会員制度新設

築理会会費を改訂することになりました。'95年度から会費を5,000円とし会報年4回発行などの活動を続けてきましたが、会費納入会員の数は伸び悩み、むしろ多少減少傾向にあります。それでこの際、会費を値下げしてなるべく多くの会員の方々のご協力が得られればと思います。ただ会費総収入は減るかと思われまので、会報発行は年2回とさせていただきます。築理会活性化の一環として会報年4回の発行を続けてまいりましたが、一応の成果はあったかと思しますので、ご了承下さい。

又、今回、終身会員制度を導入することになりました。卒業30年(今年の(特部)4期以前)の会員諸氏には会費30,000円の一括納入で終身会員とさせていただきます。築理会財政安定のためにも、ぜひご協力の程よろしくお願いいたします。

また、昨年度会費の銀行自動振込みの制度を導入する旨、ご案内いたしました。ご利用される会員が少なく、中止させていただくことになりました。一部ご協力いただいた会員の方々には、ご迷惑をおかけしましたことを、お詫びいたします。

なお、会費改訂等は正式には総会の承認が必要ですが、会費請求の時期的な都合もあり、今回振込み用紙を同封させていただきました。

記

築理会年会費(改訂)： 3,500円
終身会員会費(新設)： 30,000円
(有資格：卒業30年以上経過の会員)

平成10年度築理会決算報告

収 入		支 出	
平成9年度繰越金	756,891	会報	1,500,259
築理会会費	2,190,462	名簿	630,608
セミナー(3回),OBと語る会	69,000	セミナー(3回),OBと語る会	67,500
総会・懇親会	180,000	総会・懇親会	142,587
		事務・運営・HP維持費	351,852
銀行利息	600	繰越金	504,147
合 計	3,196,953	合 計	3,196,953

情報委員会より

築理会ではインターネットのホームページによる情報交換を目的として1998年より情報委員会を新たに設置しました。昨今、インターネットの利用者は鰻上りに増加傾向にあり、今後、益々増えていくと思われます。このニューメディアを活用してあらゆる情報を会員相互に交換することが大きな目標であります。

ご存知の通り、今日の日本は近代まれに見る大不況の中にあります。このような不況だからこそ、同窓会を活用していただき、人脈を広げ多種多様な対策をうっていくことが必要だと思います。それには、どこにどのような情報があるのか、或いは求められているのか、それらを知ることによって、的確に経営戦略を立てることが可能になることでしょう。そこで、築理会ホームページを活用していただきたいと思ひます。

ちょっと技術的な話になりますが、皆さんはマルチメディアの意味をご存知でしょうか？簡単に要約すると、情報を0と1の2進数の信号に変換し、伝送することを意味します。要するに、デジタル信号に変換して情報を遠くまで伝達する媒体のことです。このデジタル通信技術は国際的な約束のもとに規格化され、世界中どこでも情報のやり取りが出来るようなシステムが構築されています。0と1に変換できる情報とは、文字、音、画像、映像(味や香りについてもデジタル化することによって可能だと言われています)など、紙の媒体に比べれば遥かに多くの情報を送受信することができます。

築理会の情報も質の高い情報を大量に、安価で、しかも環境問題に配慮した方法で提供していきたいと考えています。今後は、情報委員会単独ではなく、事業委員会・会報委員会との連携を密にして活動していきます。

最後に、ホームページアドレスは<http://www.chikurikai.org>です。人材不足のため、内容の更新が不定期です。インターネット技術やホームページ作成に興味のある方は、jojima@chikurikai.orgまでご連絡ください(情報委員会で活躍していただく会員募集中)。

今後の活躍にご期待ください。

(監) - 15 城島匡人

事業委員会より

早いもので平成10年度の活動を総括する時期となりました。事業委員会では、下記の活動を実施して参りました。先生方そして会員皆様のご協力により実施することができまして、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。この1年間の活動報告・反省と平成11年度へ向けての展望について触れてみたいと思います。

1. 活動実施項目

- 1) 築理会懇親会
- 2) 建築業界の説明会(在校生対象)
- 3) 現場見学会
- 4) 研究セミナー

2. 各活動の内容

各活動の概要について報告します。

1) 築理会懇親会

日 時：3月18日(水)、場所：理窓会館
出席者：OB会員50名、先生方5名
内 容：会員相互の築理会活動の今後へ向けての意見交換及び先生方との懇親を図る

2) 建築業界の説明会

「今、建築業界はー
建築学科OB、OGに聞く」
日 時：11月28日(土)、場所：理窓会館
出席者：学生10名、OB15名
内 容：在校生(主として4年生、大学院生)を対象に建築業界の現況及び就職活動への助言等

3) 現場見学会

日 時：6月27日(土)
場 所：アクアフォレスト稲毛
出席者：5名
内 容：躯体のサイクル工程及び仕上げ工事・設備工事を中心に見学会を実施

4) 研究セミナー

日 時：下記に記載
場 所：理窓会館会議室

研究セミナーは、上半期1回、下半期2回の計3回実施しました。概要について述べます。

上半期 総参加者34名(内、学生13名)

第1回、6月27日(土)、真鍋恒博先生
「ライフサイクル性能評価について」

下半期 総参加者69名(内、学生27名)
第2回、10月24日(土)、直井英雄先生
「長寿社会と日常災害」

第3回、11月14日(土)、寺本隆幸先生
「制震構造の可能性」

3. 活動をふりかえって

1) 全体として

いずれの活動に於いても参加者は30~40名程度(現場見学会を除く)ですが、学生の出席者の比率が高いということがいえると思います。会

報に事前に予告記事を掲載しておりますが、時間的な問題もあり、忘れてしまうということが最も大きいかと思えます。しかし、98年度は昨年度と同様に、日経アーキテクチャに予告を掲載する等した結果、一般の方々も数名出席されています。

2) 参加形態について

築理会活動へ参加できるのは、主に東京近郊に居住する会員に限定されています。それ以外の会員に対する活動形態を検討する必要があると思えます。

4. 平成11年度へ向けての展望

平成10年度の活動の反省を踏まえて平成11年度は下記内容について検討したいと思います。

1) 各種催物の出席者増に向けて

- (H) インターネットホームページへ各種行事予定を掲載する
- (I) 雑誌への公示(例：日経BP(社)等)を継続的に実施する

2) 研究セミナーについて

- (H) 開催時期と回数について
会場及び講師の方々の都合により、全3回とし6月、10月、11月を基本とする
- (I) 参加費について
築理会費納入者とその他の人で区分する
- (I) 講師・企画について
理科大OB及び外部の方々を招へいする

3) 情報化時代への対応

インターネットに築理会のホームページが設置されましたので会員相互の情報交流を活性化

する
(特-8 □ 河合康夫)

会報委員会より

今年度は、会報委員として新たに中川氏(監部13期)、諸岡氏(監部10期)のお二人に加わって頂き、戦力的に充実した年となりました。

昨年までの年間4回発行をミッションとしてきた事と比較して、より活発な会報の活動を行えたと思えます。

連続リレー記事としての「朱雀門特集」もこれまでのメンバーのみでは実現し得なかったものです。但し、一方では会費納入状況の悪化に伴い、今年度は年3回の発行となってしまいました。

このことは、会費納入を促進させる為の唯一の手段といっても過言ではない会報自体の訴求力不足を痛感させられました。

会報自体の重さをはじめと感じ取った事件として、これまでは学級新聞の延長のような同好会的雰囲気を変えなければならぬのではない

朱雀門の耐震性能

—木造で復元されるまでの裏話—

河合直人

建設省建築研究所(当時杉山研究室助手)

[そもそもの始まり] 10年前の1988年3月14日、木造建築研究フォーラム「伝統復元構法研究会」第1回会合が開かれた。木造建築研究フォーラムとは、木造建築関係者の横のつながりを目的として1986年に生まれた組織であり、会長は元東大教授の内田祥哉先生。そして伝統復元構法研究会は、奈良国立文化財研究所の委員会(以下、表の委員会)での朱雀門復元案が鉄骨造であったことを、内田先生が嘆いたことに端を発して生まれた研究会である。元々木造で建てていたのならば、木造による復元を目指したい。木造による復元の可能性と手段を探り、さらに広く復元の意味を考えるのが伝統復元構法研究会(以下、裏の委員会)の目的であった。第1回会合の会議録を見ると、事例収集とか、復元の哲学などの文字とともに「38条の大臣認定・今のところ唯一の突破口」と記されている。どうせなら正々堂々と伝統的木造建築物の構造性能を評価して基準法第38条の大臣認定につなげたいという意識があった。そして、この唯一の突破口に向けて、理科大杉山研究室の実験的研究が進められていくことになる。

[模型実験] 実は、古代木造建築物の耐震性能に関しては、それなりに研究がある。例えば昭和初期に「剛柔論争」(耐震建築は剛構造か柔構造かの大論争)の柔側のオピニオンリーダーであった真島健三郎。真島は伝統的木造建築物が耐震的なのは、柱のロッキングによって柔構造として地震入力を低減しているからだという説を唱えた。柱のロッキングの効果とは、ずんぐりとした柱が横力で転倒しようとするれば、上からの力が倒壊を防ぐ側に働くというもの。缶ビールの缶を10本程並べて上に板を置けば、人が乗って揺らしてもそうそう倒れることはないという、その原理である。後に京大の坂静雄が法隆寺修理に係わる一連の研究で実大のヒノキの柱を使って実験している。悲しいかな、理科大の一研究室の予算では、とても実大のヒノキでの実験は難しい。平成元年度の特論テーマとして、まず柱のロッキングによる復元力の理論的計算と、既往の実験結果による地震応答計算を行うこととした。佐藤(仁)君と田中君、2人の意欲的な特論生がこれに取組み、この時点で地震応答計算でそこそこの耐震性能があることを示している。しかし、坂先生の実験は一方向加力なので応答計算には不十分だ。そこで、次年度の特論では模型実験を計画し、長さ50cmの角柱2本の上に760kgの鉄板を置いて、横から押す試験と振動台で揺らす実験を行った。この時は職業能力開発大学校の施設を借りたので、特論生の佐藤(泰)君、はるばる橋本まで通ったものだ。これで荷重変形関係と振動特性がかなりはっきりした。が、古代木造建築の柱は本当は丸柱である。平成3年度の特論生、山崎君、関根

君の2人もまた、橋本まで通うことを余儀なくされたのであった。地震応答計算と振動台実験結果は、予想以上に良く合った。成果は「裏の研究会」にその都度報告され、次第に、これは何とかなるという気分になっていったのである。

[実大実験] こうして細々と基礎的実験を続けていたが、その間にも朱雀門の現場では基壇の工事が進み、「表の委員会」では、上部を鉄骨造で行くのか木造にするのか、決着がせまられていた。上物を復元する予算もついていた。一方、「裏の研究会」では、実大実験の実施に向けて、東京大学の坂本先生を研究代表者として文部省の科学試験研究費を申請、平成3年度の研究費約1千万円を確保するに至った。実のところ、これでは実大の柱1本買ったら終わりである。如何に安く実験を行うか苦心した結果、東京大学の施設を借りて、朱雀門の3分の2スケールの柱(それでも長さ3.6m)2本と頭貫、大斗からなる門型フレームを試験体とし、積層木材による耐震壁を入れた場合も含めて加力実験を行うことになった。1992年の春の日差しを横目に見ながら、当時杉山研特論生の角谷君、次年度卒論生の中島さんらが、手動ポンプの微妙なタッチで押し引きし、綺麗な荷重変形曲線を得た。この結果を用いた地震応答計算では、50kineレベルの地震(超高層の地震応答計算に使うレベル)に対しても倒壊しないことが確認された。木造による復元が現実の可能性を帯びたものとして提案されることになったのである。

[結び] その後、紆余曲折があって(この部分の詳しい経緯は省略するが、)この3分の2スケールの実大実験結果、及びその後京大で実施されたステンレスパネルを用いた補強耐震壁の実験結果に基づき、京大の西澤英和先生が手がけた地震応答計算を伴って、木造による復元案が大臣認定を取得した。伝統復元構法研究会は、先の地震応答計算結果を出したところで(幹事の私の転勤に事寄せた怠慢もあって)自然休眠中である。しかし、この「裏の研究会」と、研究会を実験データで支えた杉山研究室が、今回の朱雀門の木造による復元を実現させる大きな力になったのだ、と密かに自負している。



- 東京大学での実験風景 -

OB作品展「住宅中継」開催される

理科大OBによる作品展「住宅中継」が、2月9日―18日の日程で開催された(銀座・建築家倶楽部)。出展した10名の構成は工学部出身6名、理工学部出身4名であるが、1945年生まれの中村弘道氏から1963年の遠藤政樹氏・1966年生まれの高安重一氏まで、年齢幅も大きい。この10人は石橋利彦氏をコアとして日常的に交流の機会を持っており、これが自然な流れでこの作品展の実現につながった。



- 展示会場とフォーラム風景 -

タイトルの「住宅中継」ということばには、住宅の出来映えを誇示するプレゼンテーションよりも、作品の「プロセス」に重点をおくことが示されている。人間との葛藤、地域との葛藤、コストとの葛藤などをテクノロジーとしてどう答えを出したのか。テクノロジーに対する誠実で積極的な姿勢が、理科大で学んだ者の基本的なスタンスであることも、あわせて伝えようと試みたのである。

初日の2月9日には「フォーラム」を開催し、メンバー全員が自作をそれぞれプレゼンテーションした。また同時に日経アーキテクチュアの副編集長を務めるOBの森清氏が理科大の教育と作風について概括をおこなった。会場からは「理科大出身者のデザインには建築学が基盤にあるようだ」(彰国社・亀谷信男氏)とか「プロフェッショナルであろうとする意識の高さを感じた」(新建築・大森晃彦氏)などの声があった。フォーラムの最後に理工学部の川向正人助教授から、「今日のこの場が密度が高いものになったことに感謝したい」とのコメントがあった。小さな試みではあるが、理科大とその出身者の活動がさらなるひろがりを持つきっかけになったと確信する。

(特-14) 佐野吉彦)

なお、出展者と作品名は以下のとおり。

- ・ 中村 弘道(I - 1)
風に浮いた木造シェル・「狛江の家」
- ・ 杉浦 伝宗(理工学部)
ちっちゃな家
- ・ 海野 健三(I - 9)
高蓄熱URCハウス1
- ・ 近藤 春司(理工学部)
K - PROJECT
- ・ 小暮 涉(I - 11)
前橋の家
- ・ 佐野 吉彦(I - 14)
震災復興マンションのプロセス
- ・ 松本 剛(I - 17)
伊勢原の家
- ・ 遠藤 政樹(理工学部)
初台のアパート+可動の木造+
HP防音シェルのあるスタジオ住宅
- ・ 高安 重一(理工学部)
HOUSE <かみすーほしな>
- ・ 石橋 利彦(I - 5)
本天沼のホットスラブ



- フォーラム懇親会風景 -

インフォメーション

平成11年度総会・懇親会開催

今年度の総会並びに懇親会を下記のように開催いたします。今回の総会では、10年度の決算報告、11年度の予算案などについて討議します。併せて、4年間の任期満了に伴い、新会長、新副会長を選出する予定です。会長の八木嘉也氏(特部3期卒)、副会長の坂下誠氏(臨部2期卒)におかれましては、4年間ご苦勞様でした。新しい体制のもとで、築理会幹事一同、会の発展のため引き続き尽力していく所存です。会員皆様の情報交換と親睦の場として、年1度の総会・懇親会にぜひご出席賜りますようご案内いたします。たくさんの人と交流を深め、建築学科OBの輪を広げましょう。今年も築理会は進化していきます。

日時：1999年3/17(水)
18:30～19:00 総会
19:00～20:30 懇親会

会場：理窓会館3階会議室
会費：3,500円

下記データカード出欠覽にチェックをし、必要事項を記入の上、築理会事務局までFAXをお送り下さい。(03-3235-6897)
(欠席の場合も、お手数ですがご返答願います。)

「編集後記」

いよいよ21世紀が間近に迫りました。私がかかわっている業務をはじめ、現在各地で動いている大規模な建設工事の多くが、2002年までの開業を目指しているようです。

不況が慢性化している中で、不思議な事に21世紀の幕開けから2002年サッカーW杯の開催時期まで建設ラッシュとなっているのです。

しかし不況には変わりありません。ただこれから新世紀を迎え、建築界においても新たな価値観が形成されていくであろうこの時期に、不況を理由に、新たな可能性の芽を建築に従事する多くの人々自身(自分も含めて)の中で勝手に摘み取ってしまっているのではないかと疑念が生じています。

この時代をいかに生き延びるかが次世代への土壌に大きく影響する事は間違いありません。

皆様のご意見を是非お聞かせください。

築理会報99春号

99年2月発行 Vol.24

編集長：伊谷峰

編集委員：森清、伊藤学、安達功、渋川克也、
諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩

印刷発送：グローバルシステム株式会社

平成11年会費納入のお願い

現在、平成11年度の会費の納入をお願いしております。未納の方には振込用紙を同封しておりますので、お振り込み下さい。

今後のさらなる築理会発展のためにご協力をお願いいたします。

年会費 3,500円
口座名 築理会
郵便振替 00110-5-171952
銀行振込 東京三菱銀行神楽坂支店 普通4335597

募集します！

会報委員会では、築理会報の各コーナーへの記事を募集しています。どんな些細な情報でも首を長くしてお待ちしております。また、建築にこだわらず、おいしい料理の作り方や、うまいラーメン屋情報、あなたの楽しい旅行記、その他の記事・情報、また、はみだしチクリにもどんどんお寄せください。

築理会あてFAXにてお知らせください。

データ確認カード返送のお願い

住所、職場、部署等に変更のございます方は、下記データ確認カードにご記入の上、築理会事務局までご返送下さいます様お願い致します。

最新データに基づいた名簿作成、編集のためご協力をお願い致します。

送付先：建築学科事務室内・築理会事務局

名簿作成委員会

築理会員データ確認カード		記入日：19 / /
ふりがな：	卒業年	年3月
名前： (旧姓)	(期 研)	
	<input type="checkbox"/> 部 <input type="checkbox"/> 部	
ふりがな/勤務先：		
ふりがな/部署・役職：	TEL	
	FAX	
電子mail：		
現住所：(〒)	TEL	FAX
電子mail：		
現住所以外の安定的な連絡先、具体的な連絡方法及びTEL：		
所属学会	<input type="checkbox"/> 日本建築学会	<input type="checkbox"/>)
<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)	<input type="checkbox"/>)
通信欄		
総会・懇親会に 出席いたします。 欠席いたしますので、総会でのすべての権限を議長に 委任いたします。		

お手数ですが拡大コピーをしてFAXにてお送りください。